

ドイツ・ヴリーツェン市学生交流事業の実施結果について

1 事業の目的

本市の海外友好交流都市であるヴリーツェン市に学生を派遣し、現地でのホームステイなど様々な体験を通して、自らの国際理解を深め、両市の友好親善を促進する。

2 派遣先

ドイツ連邦共和国 ブランデンブルク州 ヴリーツェン市

3 派遣期間

平成 30 年 8 月 27 日（月）～9 月 1 日（土） 5 泊 6 日

4 派遣者

4 名（高校生 2 名、大学生等 2 名）

※市職員 1 名が同行

応募状況は以下のとおり

	男	女	計
高校生(高専生を含む。)	10 名（3 名）	8 名（6 名）	18 名（9 名）
大学生	11 名（2 名）	20 名（4 名）	31 名（6 名）
計	21 名（5 名）	28 名（10 名）	49 名（15 名）

（ ）内は、市外在住（市内の学校に在学）者の人数

5 派遣行程

日にち	内容	宿泊
8 月 27 日（月）	成田空港発 ベルリン・テーゲル空港着後、ベルリン市内へ移動	ベルリン市内ホテル泊
8 月 28 日（火）	在ドイツ日本国大使館表敬訪問 ベルリンを出発し、ヴリーツェン市へ移動 ヴリーツェン市到着後、ホームステイ先へ移動	ヴリーツェン市内 （ホームステイ）
8 月 29 日（水）	ホストファミリーと行動	ヴリーツェン市内 （ホームステイ）
8 月 30 日（木）	ヴリーツェン市長表敬訪問 肥沼博士墓参り、肥沼ルーム・記念碑見学 聖ヨハニッター校訪問 など	ヴリーツェン市内 （ホームステイ）
8 月 31 日（金）	ヴリーツェン市を出発し、ベルリンへ移動 ベルリン・テーゲル空港発	機内泊
9 月 1 日（土）	成田空港着	

6 事業の成果

市内の高校生・大学生がヴリーツェン市を訪問し、ホームステイ等を通じて現地の人々と触れ合うことにより、文化、教育、食等の日本とドイツの様々な違いに触れ、自らの国際感覚を磨くことにつながった。特に、聖ヨハニッター校の生徒との交流では、同年代のドイツ人の考えに触れることができ、有意義な交流となった。

また、両市の交流の契機となった故肥沼信次博士ゆかりの場所の訪問や、肥沼博士の下で働いていた元看護師のヨハンナ・フィードラーさんとの面会を通じ、ヴリーツェン市の名誉市民として現在も敬愛されている肥沼博士の功績を深く実感することができた。更に、ヴリーツェン市長との交流、市議会への表敬訪問、現地の保育施設等での交流を通じて、両市の友好親善を深めることができた。

帰国後は、八王子国際交流フェスティバルにおいて帰国報告会を行い、学生が現地での交流の様子を報告し、ヴリーツェン市の魅力を八王子市民に伝えるとともに、市民の国際理解の推進にもつなげることができた。

【交流の様子】



↑ホストファミリーとの対面（肥沼ルームにて）



↑肥沼博士の下で働いていたヨハンナ・フィードラーさんと一緒に博士の墓参りをした時の様子



↑ヴリーツェン市長への表敬訪問の様子



↑聖ヨハニッター校の生徒と